

あり、現在獨逸で第三の位置を占めてゐる。

以上で我々はライン＝ウェストファールの工業の主たる部分を把握することが出来た。その數的な大きさから見れば（現在全獨逸の工業の四分之一は此處に存在する。）残りの是迄言及されなかつた工業部門もその程度の差こそあれ又盛であることが明かである。併し之等の工業は場所的には何處も支配せず全地域に分散してゐる。

我々はもう一度簡單にライン＝ウェストファールの空間に於ける工業分布を概観せう。この最大且最稠密な工業集積の基礎をなしたものとしては第一に石炭と鐵が擧げられるがこの二者のみがその基礎を成形してゐるのではない。同時に石炭や鐵に依存して居らぬ多數の工業が見られる（たとへ石炭の低廉なことによつて彼等の發展がひどく促進されたものではあるけれども）。此の地域の現在の工業の分布及び歴史的な立地の發展は多種多様である。且ては原料指向

的であつたものが現在勞働指向的なものに迄に發展したザクセンやチッリンゲン、或は新に發生した原料指向的工業地域である中部獨逸とは異つて、此處では指向の發展が甚だ雜然として入り混つてゐることが證明された。此處では大體十五の工業地區に區別することが出来る。その限界は無論それ程明瞭ではない。先づルールは炭山と鐵工業が支配的であり、規模は小さいがオスナブリュック（Osnabrück）も同様である。

（未完）

新著紹介

〇地震とその研究

石本巳四雄著 古今書院發行
定價三圓二十錢

地震研究所長石本博士最近の勞作である。本書菊版三三六頁、三篇にわかれる、第一篇は地震動で地震の定義から地震計、地震動の觀測震源位置、岩石の彈性、前震餘震海震地震動の測定を論じ、第二篇地形變動の章では、肉眼的觀察、器械測量、その結果と解釋地震發生に關する諸現象を解説し、第三篇地震の原因といふ章では今日までの地震原因説の變遷

を語り、地震原因論説をのべて岩漿内壓力によつて、地震が起るといふことを力説し、斷層は地震の原因ではない、岩漿の垂直運動又は水平運動による變化が、或は土地の凹凸となり、斷層の出現となるといふ、所信をのべられたものであつて、我等は今地震そのものを明に理解すべき道程に立つてゐることを教へられてゐる、まだ、地震の豫報といふことは出来ない、もう少し靜かに事實を靜視すべきことを教へられてゐるのである。(藤田)

紀州 鐵道省發行

紀勢西線が白濱口からさき紀伊富田驛まで開通し、紀勢東線が相賀から尾鷲まで開通した機會に於て鐵道省は紀伊の國の風光を紹介せんとて、この四六版百八十頁の美しい小冊子を二月十日といふのに公刊した、秦の徐福がきたといはるゝ熊野、奈良朝からこなた歴代の御幸を仰いだ牟婁御幸道や熊野街道は所謂名勝古蹟の群落といつても差支へない、南は大海の黒潮に洗はれるリヤス式海岸にこんもりと儔着たる馬目の木や黒松の森、大邊路中邊路とりどりに美はしい自然と懷古の思ひ出はふかい。本書和歌山線、紀勢西線、紀勢中線、紀勢東線の各線各驛について巡覽の要ともいふべき解説がある、地理歴史各項にわたつて細大洩らさず、最後にハイキングコースとしての日程案が加へられ、温泉めぐりや熊野めぐりと相俟つて清新の氣卷中にあふるゝを喜ぶ。(藤田)

○朝鮮の松茸

平安南道に於ける松茸は有望で昨年は夏の長雨で幸に一般に生長がよく總生産額一千六百七十四貫で前年よりも三百八十六貫増産價格も一萬三千圓に達し、林業副産として斷然光つてゐる、平南の中で陽德郡が第一で千三百貫を産し七割七分をしめた、平坦部で大同、中和、平原、安州、順川、山間部では成川、寧遠、价川など九郡に跨つて三十一ヶ面、百〇四ヶ里にわたる、平安南道全體にこの松茸山が出来る見込になつた、七月中旬から十月の上旬までに收穫され、平壤の仲買人が買集め、地方農民は利益が渺いので、今般生産組合を組織した。

攝氏十三度から十七度までの氣温かつぎ、花崗岩を母岩とする土壤が最適し松茸の菌糸は赤松の地表近くの鬚根に寄生する關係上、幼齡木には出ず二三十年頃の木から發生し四五十年の木が最もよいが、稀には百年前後の樹齡のものにも出るといふことがわかつた。

○臺南第一中學校の氣象觀測

本年一月一日から生徒に氣象を觀測させる事になつた其要項左の如し。

○設備

一、露場 本校南庭芝生内に選定し、規定の百葉箱を建設、中に左の機械を置いた。